



ミュンヘン便り ～ツール・ド・フランス～

残暑お見舞い申し上げます。

この原稿を書いている今は、7月中旬、まさに盛夏真っ只中。9時半ごろまで明るく、一年で最も太陽光を謳歌できる季節。食事は、戸外でするに限ります。外で食事といえば、もちろんビアガーデン。大きな木が作る快適な木陰で、ビールや鳥の丸焼きなどをつつきます。先日も友人の弁理士K、EPOの審査官、同僚と私の4人でビアガーデンに繰り出しました。この時期の話題といえば、サッカーのワールドカップと同じくらい人々が熱く燃えあがるイベント、ツール・ド・フランスです。友人の弁理士Kは大の自転車好き、先日もイタリアの山岳地帯での5日間にわたる自転車ツアーをこなしてきたとのこと、標高差が延べ10000mを超え、傾斜10度以上の坂道を連日上ったり下りたりした体験を熱く語ります。

最近では日本でも自転車がスポーツとして楽しまれるようになってきましたね。私が子供のころは、自転車は単なる移動手段でしかなかったのですが、今でもその認識が私の頭を占めています。そんな私に自転車がスポーツとして不動の地位を有していることを心底認識させてくれたのが、ツール・ド・フランスです。それはパリの友人宅に行ったついでに、ツール・ド・フランスの最終日である日曜日のことでした。ご存知の方も多いと思いますが、ツール・ド・フランスのゴールはいつもパリ、シャンゼリゼ通りです。選手たちは、パリにたどり着くと、広いシャンゼリゼ通りをぐるぐると10往復ほどしたのちに、ゴールします。パリ以外に設定されてい



るツール・ド・フランスのコースであれば、目の前を一瞬で選手たちが通り過ぎたらもう見るできないのに比して、シャンゼリゼであれば20回ほど彼らを見るチャンスがあることになります。

私が観戦したのは2012年でしたが、炎天下の中、選手たちがパリに到着する5、6時間前から、すでにシャンゼリゼは場所取りの人で埋まり始めています。まず登場するのは、選手の到着の4、5時間前に現れる広告の車。その後待つこと2、3時間（私はこの間に食事をしました）すると、シャンゼリゼの歩道は完全に待つ人々で埋め尽くされます。炎天下、楽しいイベントとはいえ、かなり体力が要ります。つついイライラし、ぶすつとした顔にもなってしまうがち（写真）。小さい子供には不向きです。

シャンゼリゼ通りの歩道は日本の車道ほどに広いのですが、それが幅いっぱい埋まるほどの人混みです。後ろでは、選手たちを見ることはできません。多くの人は少しでも高いところから見ようと、登れるところにはす



べて人が登っています。なんと脚立持参の人もありました。写真は、地下鉄シャンゼリゼ駅の入口の壁に登り、そこに立って観戦しようとしている人たち。この他にも、ちょっとした凹凸を頼りに街灯によじ登っている人などもありました。私の身長は164.7cmで日本では小さい方ではありませんが、この日は世界では自分がかかなり小さいことを実感しました。自分よりも大きい人たちが自分の目の前で最大限伸び上がっているのです。ほとんどといっていいほど見えないのです。しかも、世界のツール・ド・フランスに出場している選手の方々の速いこと、自動車並みの速度です。平地のシャンゼリゼでは、彼らは時速70-80Kmにも達すると聞きました。文字通り一瞬で目の前を通り過ぎます。写真を撮るのも容易ではありません。

実際、携帯電話で写真を撮るのは難しいです。彼らが見えてからシャッターを押すと、すでに彼らを通り過ぎた後、写っているのはシャンゼリゼの石畳だけ。しかも、上述のように人混みの中では、最前列には到底たどり着けません。ということは、彼らがいつ来るかが全く予測できないのです。携帯電話を持った手だけを目いっぱい前方かつ上方に突き出し、遠くから聞こえてくる人の歓声と拍手とでそろそろかと思う頃に、彼らをまだ視認していないもののえいやでシャッターを押す。これを何度も繰り返し、何度も失敗し、

何とか自転車に乗った人を写すことができたのが上の写真です。有名な黄色いシャツは、あまりにも彼らの疾走速度が速すぎて、私の目でとらえることができませんでした。本気でいい写真を撮りたい方は、携帯電話ではなく、カメラを持っていかれることをお勧めします。

それから相変わらず移動手段としてしか自転車を使っていませんが、連日ツール・ド・フランスが生中継されるこの時期になると、彼らの驚異的な疾走速度、人々の熱気と高揚が鮮やかに脳裏に蘇ってきて、日々の自転車通勤で内心ひそかにツール・ド・フランスな気分になるのです。

筆者紹介

稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、GIP Europe Patentanwaltskanzlei所属。1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe (GIPグループミュンヘンオフィス) 設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。